

# 夕花野

松岡隆子

けふ咲いて今日の蒼さの蛍草  
もう一度見て露草を蒼くする  
水渡りきて十月の蝶白し  
雨あとの彩こそ紫式部の実  
泉まで来て彼岸花見て帰る  
ずずこ採る夕べの風を手に残し  
爽籟や暝れば刻ゆつくりと

みんな居てみんな遠くて夕花野  
花野とはいつもどこかで引き返す  
誰捜すともなく月の道をゆく  
眠りさめ眠り覚めてはつづれさせ

真実の言葉は白き曼珠沙華

自宅から歩いて十分余りのところに白花曼珠沙華が咲く古刹がある。昨年  
行く暇がなかったが今年は何としても見たくて行ってきた。参道の枝垂桜の樹  
下には満開になったばかりの白花曼珠沙華が咲き群れていた。白ながらどこか  
燃えるような激しさを秘めているのは曼珠沙華ならではであろう。黒田杏子歳  
時記の「月光の白花曼珠沙華」を読んでからは、白花曼珠沙華は天上の花だ  
と思うようになった。かつて夢中になつて俳句に詠んだのは赤い曼珠沙華だ  
つた。何時の頃からか白い曼珠沙華に惹かれるようになった。いつか月の光にか  
がやく白花曼珠沙華を見たい。球根を買ってきて庭に植えようと思う。